



▲優れた指導力と豪放磊落な人柄で多くの選手から慕われている小出義雄監督。本市での講演会でも、陸上競技の指導者としての半生と信念について熱弁を振るわれました

「本気でやれば夢は必ず叶う」世界が相手の指導哲学

女子マラソンの小出義雄監督講演会から

鷹巣農林高校創立97周年・第55回全国高等学校スキー競技大会男子総合優勝記念事業

有森裕子、高橋尚子選手など世界の舞台で活躍する陸上競技選手を数多く育てている小出義雄監督の講演会（主催／鷹巣農林高校生徒会）が10月23日、市文化会館で開かれ、同高の生徒

また、実業団チーム監督としての転身後は、オリンピックのマラソン競技メダリストの有森裕子、高橋尚子両選手など多くの世界レベルの選手を育て、その指導力は国内外で注目されています。講演会でははじめにこの講演会を企画した同高生徒会の安部聖会長（3年）が、「今私たち3年生は進路を決定する時期。多くのアスリートを育てられ、『本気でやれば夢は必ず叶う』との信念を持たれる監督の講演を心待ちにしていた」と歓迎のあいさつ。

強い信念を持ち、努力を続ければ障害を克服、夢に近づける

小出氏ははじめに、「母校の千葉県立山武農業高校には早朝に家を出、列車で一つ前の駅で降りて走って通った。それ以来50年くらい陸上と付き合うことになるが、当時の家は農家で進学もままならず、陸上漬けの毎日で勉強もあまりしていなかった。しかし、『教師になりたい』との強い思いが大学進学と教員採用試験合格をかなえさせてくれた」と高校時代から教師になった頃までを紹介。高校陸上部の監督時代は、「佐倉高校の陸上部で

「監督の講演を心待ちにしていました」
講演会を企画した安部聖生徒会長

講演会は鷹巣農林高校創立97周年と、今年2月鹿角市で開催された第55回全国高等学校スキー競技大会での男子総合優勝を記念し開かれたもので、同校の生徒、教職員、同窓会、PTAのほか一般の方を含め約500人が聴講しました。

現在、実業団の選手らが所属する「佐倉アスリート倶楽部」の代表取締役兼監督を務める小出義雄氏は昭和14年生まれ、67歳。千葉県佐倉市の出身で順天堂大学を卒業、千葉県内の高校の陸上部の指導者として全国レベルの選手を数多く育て、市立船橋高校では全国高校駅伝で男女のチームをそれぞれ優勝させています。

は、進学校ということもあり陸上部員も少なかったが、駅伝大会では、野球部やサッカー部などのクラブから足の速い選手を借り3ヶ月ほどの猛練習で千葉県で優勝することができた」また、「市立船橋高校では、市長や教育長から『船橋を陸上で日本一にしてくれ』といわれて強化を始め、翌年には男子5km、女子3kmで優勝者を出し、インターハイでも総合優勝を果たした。船橋市というところは都会の町で練習する場所も少く、駅伝の練習も交通量が多く危険な車道の端だった。でも、練習環境が悪いから走れないというの弱音、勝とうと思えばどんな場所でも練習できる」などの話に、生徒たちもうなずきながら真剣に聴き入っていました。

オリンピック出場の夢を持ち続け、メダル獲得を実現させた有森、高橋両選手

小出監督は高校陸上部の監督を経て、オリンピック選手を育てたいとの思いから実業団チームの監督に転身します。リクルート時代、監督が育てた選手の一人・有森裕子選手については、「彼女がリクルートに来たとき『オリンピックに連れて行ってほしい』と言われた。当時は無名だったが、『いくら苦しくともみんなの倍は練習できる』と話す彼女のオリンピック出場への願望と、我慢強さはすごいと思った」と紹介。また、「バルセロナオリンピックを前にして不安と緊張に苦しむ有森にたばこの好きな自分が『レースが終わるまでたばこを断つ』と約束、彼女にわたした。実は彼女はそのうちの一箱を、パンツの中に縫い付けて走り、ゴールの後、汗の染

み込んだそのたばこを私にプレゼントしてくれた。今、額に飾ってあるそのタバコは私の宝物の一つ」との秘話に、聴衆も感銘を受けていた様子でした。

高橋尚子選手についても、「Qちゃん（高橋選手の愛称）も大学を卒業するまでは平凡な記録しか持っていなかった。内定していたすべての企業をことわり『監督の会社（当時のリクルート）に入れなくとも指導だけはしてください。自分を強くしてください』と行って私のところへ来た。それほど速くならないという願望を持っていた。その願望を胸に、過酷なトレーニングを続け、5年後のシドニーオリンピックで金メダルを獲得、翌年のベルリンマラソンでは女子では世界ではじめて2時間20分を切る、という歴史に残る記録を打ち立てた」と、目的を達成しようとする強い思いが夢を実現させる大きな要因になると語りかけました。

また、「あるときQちゃんが子どもからサインをせがまれたとき、急いでいたのかいやな顔で断ったときがあった。私は、『子どもには手を合わせてごめんね、と言いながら謝らない』と叱った。稲穂でも実るほど頭を垂れる。Qちゃんは泣いていたけど、すぐそのことをわかってくれた」とのエピソード

親になったとき子どもにも自慢できるくらい熱心に取り組むことが大切

講演の最後には、「記録はいつか破られる。もつと大事なことは情熱を持って一生懸命やること。現役生活よりその後の人生のほうが長い。皆さんが親になったとき、子どもにも自慢できるくらい何事にも熱心に取り組むことが大切」と訴えていました。講演の後「監督にとってマラソンとはなんですか」との生徒からの質問に監督は、「マラソンとは私の人生そのもの。私はお酒が好きで、教諭時代、付き合い酒が続いて辛いこともあったがそれを理由に休んだことは一度もなかった。それは『日本一になりたい』という夢があったから。今でも、もし東京都（自分の指導する）日本人選手に金メダルを取らせたいと思っている」と答え、実績や現状に満足せず、夢を持ち続けることの大切さを説いていました。



■小出義雄氏

千葉県佐倉市出身、67歳。1965年から千葉県内の高等学校の陸上部監督を歴任、全国レベルの選手育成に努力を重ね、特に、市立船橋高校監督時代にはインターハイ、国体などで優勝、入賞した多くの選手を育てた。また、全国高校駅伝大会でも男女のチームでそれぞれ全国制覇を成し遂げた。その後、リクルート・ランニングクラブの監督として有森裕子選手のオリンピック2大会連続のメダル獲得。さらに積水化学工業では鈴木博美選手の世界選手権メダル獲得、高橋尚子選手メダル獲得、高橋尚子メダル、シドニーオリンピックでの金メダル獲得に貢献するなど、日本の陸上競技界のけん引役を果たした。平成13年には「佐倉アスリート倶楽部」を立ち上げ、千葉真子選手ら幾多の名選手を育成し、現在もなお活躍を続けている。